

【過去 5 年】勝負のキメ技徹底分析 2019 作成：朝倉日出男

1 合格に必要な数字

1 択一基準点

	基準点	人数	割合
午前	26 問 (78 点)	2,897 人 (午前受験者数 14,853 人)	19.50%
午後	24 問 (72 点)	3,461 人 (午後受験者数 14,387 人)	24.06%

2 過去 5 年正答率別ランク表

年度	基準点 上段午前 下段午後	守る！	勝負！	影響無し！
H30	26	A : 21	B : 12	C : 2
	24	A : 17	B : 15	C : 3
H29	25	A : 19	B : 12	C : 4
	24	A : 23	B : 9	C : 3
H28	25	A : 21	B : 7	C : 7
	24	A : 23	B : 9	C : 3
H27	30	A : 32	B : 2	C : 1
	24	A : 21	B : 9	C : 5
H26	26	A : 20	B : 11	C : 4
	24	A : 21	B : 10	C : 4

【出題パターン】 午前

	H30	H29	H28	H27	H26
組合せ	31 問	30 問	28 問	32 問	29 問
個数	0 問	1 問	2 問	2 問	5 問
正誤	3 問	3 問	5 問	0 問	1 問
空欄補充	1 問	1 問	0 問	1 問	0 問
基準点	26 問	25 問	25 問	30 問	26 問

【出題パターン】 午後

	H30	H29	H28	H27	H26
組合せ	35 問	34 問	33 問	29 問	27 問
個数	0 問	0 問	1 問	3 問	7 問
正誤	0 問	1 問	1 問	3 問	0 問
空欄補充	0 問	0 問	0 問	0 問	1 問
基準点	24 問	24 問	24 問	24 問	24 問

【学説問題】 午前

	H30	H29	H28	H27	H26
問題数	0 問	2 問	0 問	0 個	2 問
出題科目		憲法 (3 肢)			民法 (1 問) 会社法 (1 問)

※平成 29 年度：憲法の学説問題出題（第 2 問・ウ、第 3 問・エ・オ）。

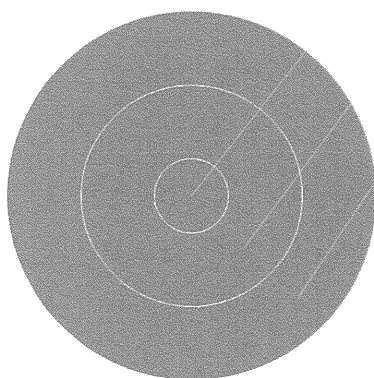
2 Bランク問題対処法

1 過去問対応力

平成 30 年度

	午前	午後
過去問出題数（肢単位）	78/175 （44.57%）	77/175 （44.00%）
過去問のみ組み合わせた の正答問題数	17 問	18 問
※Asakura ミニマムテキ スト+過去問での正答 問題数	<u>30 問(+4 問)</u>	<u>30 問(+6 問)</u>

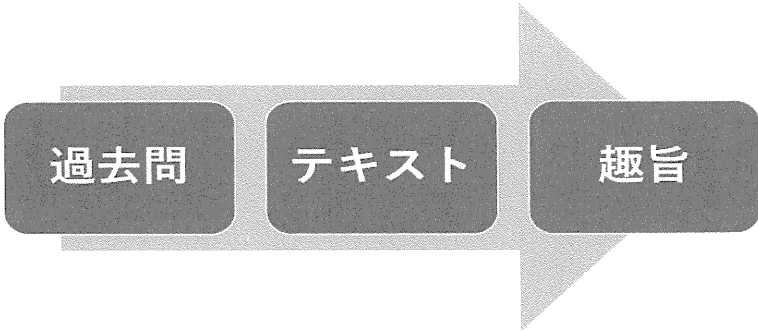
2 Bランクを構成しているのは、テキスト記載の未出論点



過去問知識

テキスト知識

答練・模試知識



過去問

テキスト

趣旨

3 趣旨を意識した学習

平成 19 年第 12 問肢イ

同一の動産について複数の者にそれぞれ譲渡担保が設定されている場合には、後順位の譲渡担保権者は、私的実行をすることができない。

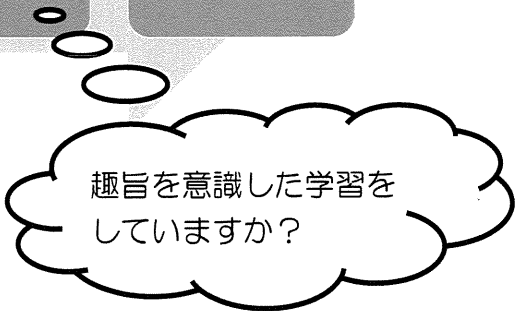
⇒ ○（最判平 18. 7. 20）。



譲渡担保

非典型担保

条文規定無し



趣旨を意識した学習を
していますか？

4 論点ごとの特徴を意識した学習

① 論点の根拠は？

- ・ 条文
- ・ 判例
- ・ 先例

② 出題傾向は？

③ 横断論点か？

虚偽表示（民法）	
H27	94 条 2 項（判例）
H20	転得者の地位（学説問題）
H19	94 条 2 項（判例）
H15	94 条 2 項（判例）
H12	転得者の地位（学説問題）
H11	94 条 2 項（判例）

連帯債務（民法）	
H28	連帯保証との比較（条文）
H25	条文
H19	連帯保証との比較（条文）
H15	条文
H10	保証との比較（条文・判例）
H9	学説問題
H6	連帯保証との比較（条文）
H4	条文
H1	判例

譲渡担保（民法）	
H30	判例
H29	判例
H28	判例
H27	判例
H26	判例
H24	判例
H23	判例
H21	判例
H12	学説問題

5 点の学習からの脱却

- ・ 合同会社の資本金の額の変更

平成 29 年午後第 33 問肢エ

合同会社の資本金の額の減少による変更の登記の申請書には、資本金の額が会社法及び会社計算規則の規定に従って計上されたことを証する書面を添付することを要しない。

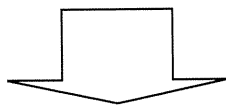
⇒ × (商登規 92 条、61 条 9 項)。

第 92 条

第 61 条第 5 項及び第六節（第 86 条を除く。）の規定は、合同会社について準用する。この場合において、第 83 条及び第 84 条中「社員」とあるのは、「業務を執行する社員」と読み替えるものとする。

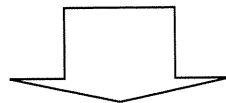
第 61 条

9. 資本準備金の額の減少によってする資本金の額の増加による変更の登記（会社法第 448 条第 3 項 に規定する場合に限る。）の申請書には、当該場合に該当することを証する書面を添付しなければならない。



資本金計上証明書・・・株式会社の資本金額の減少の場合不要。

(平成 18.3.31 民商 782 号通達第 2 部第 4, 2 (3) 68 頁)

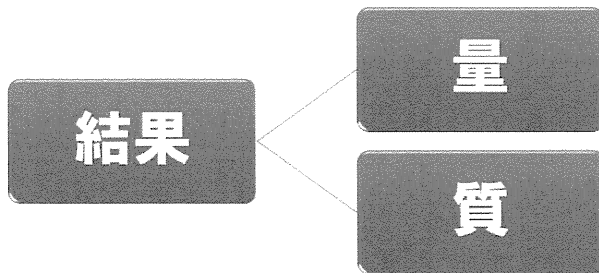


合同会社の場合、下記理由を証するために必要。

- ・ 損失てん補
- ・ 出資の払戻し
- ・ 退社に伴う払戻し

③ 得点に結びつく学習法

1 前提として



2 到達点

【択一】

- ・ 過去問を 90% 強仕上げること
- ・ 過去問 + α の知識をテキストから修得すること

【記述】

- ・ 基本ひな型を正確に身に付けること
- ・ 択一論点を記述論点へ関連付ける力を養うこと
- ・ 本試験レベルの質と量を伴った問題で実践力を修得すること

3 狙うべき得点

- ・ 択一で上乗せ点も含め 60 問得点し逃げ切る！
- ・ 記述は基準点+ α を守り切る！

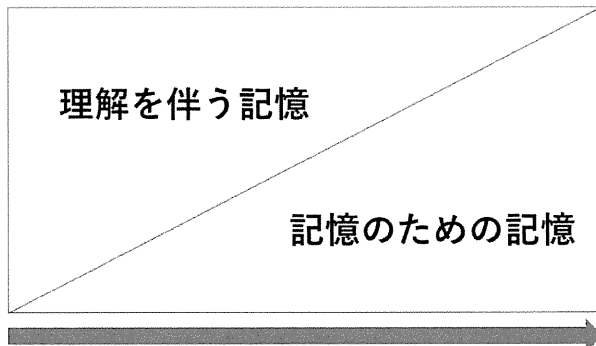
【理由】

- ① 記述は、採点が水物・ブラックボックスであり努力が得点に結びつきにくいこと。
- ② 択一は、1 問 3 点と明白であり、正しい学習法に沿って勉強を積み重ねさえすれば、比較的 effort が得点に反映されやすい傾向にあること。

4 丸暗記の弊害

- ・ 得点に結び付けるとは？

メリット	即効性がある。
デメリット	応用が利かない。無機質である。



4 合格に必要なツールとは？

1 ツールの位置付けを再確認する

己の足りないものを認識し、何をツールとするかは非常に大切！

テキスト

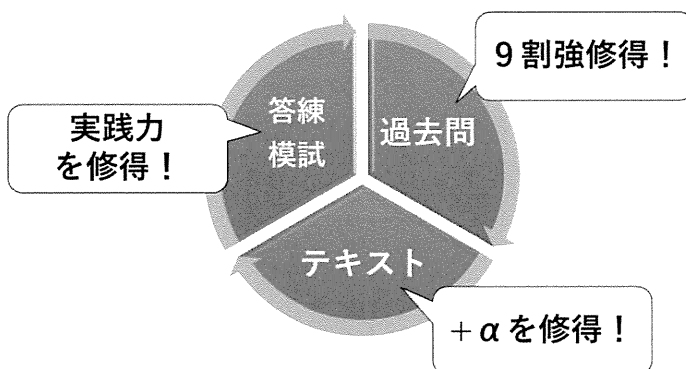
過去問

答練・模試

問題集

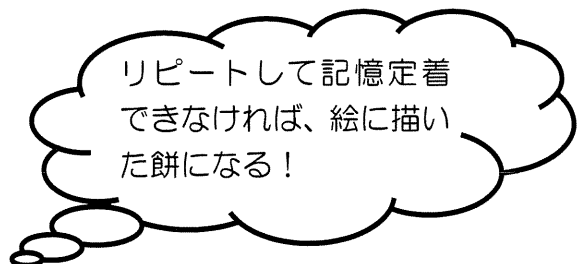
まとめ参考書

ひな型集



2 テキスト

- ・趣旨が詳細なタイプ
- ・論点数が多いタイプ



⇒ 大切なことは「網羅性」と「コンパクトさ」とのバランス

- ・ テキスト8回、過去問4回は最低回す必要あり！

3 過去問

過去問は正誤トレーニングのためだけのツールではない。

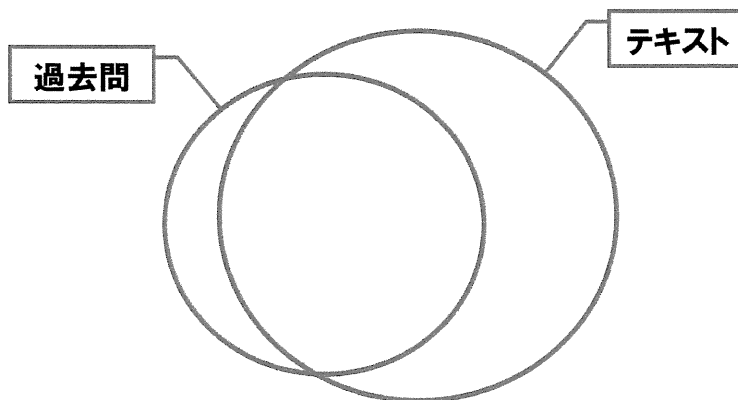
司法書士試験の“範囲”と“深さ”を血肉にするためのツールである！

そして、その選別眼でテキストを読み込むこと！

全てを演習する必要はない。

時間のある今のうちに肢単位で精査すべし！

- ・ 同じ論点は削除。
- ・ 判例・先例そのままの論点も削除。
- ・ 民法の根抵当権の問題は全て削除。



4 答練&模試

- ・ あくまで本試験シュミレーションツール
- 時間配分
- 論点確認
- 未出論点を拾う場ではない（合格には勇気が必要）

5 その他

1 どうしてもやる気が出ないとき

- ・ 弱点補強時間
- ・ 作業時間
- ・ 改正民法を俯瞰する
- ・ 疲れているのはフィジカル？メンタル？

朝倉日出男

【担当講座】

- ・ ミニマムコンプリート基本講座
(基礎構築 or 基礎再構築、全 90 回)
- ・ 択一で逃げ切る講座
(中上級択一講座、全 34 回)
- ・ 記述で守り切る講座
(中上級記述講座、全 13 回)

【SNS】

- ・ ブログ 「司法書士試験 ライジングサン」
<http://sihousyosisikennrisingsun.blog.jp/>
- ・ Twitter 「朝倉日出男 (司法書士試験講師)」
<https://twitter.com/ddgbs103>
- ・ ホームページ「司法書士試験」総合情報サイト
<http://www.minimumrepeatsihousiyosi.com/>

【Asakura ミニмумテキスト】

※「ミニмумコンプリート基本講座」、「択一で逃げ切る講座」で使用

約1300ページ

※通常のテキストの1/4程度

本年度(平成30年度)得点実績

(テキスト+過去問)

午前30問、午後30問

	平成29年	平成28年	平成27年
基準点	+12問 (+36点)	+10問 (+30点)	+7問 (+21点)

